

## Unicode を使った日本語対応についての問題提起

Rev.2 Mar. 8<sup>th</sup>, 2011

### 背景

Unicode in UTF-8(ISO-IR 192)のサポートは、DICOM CP-252(Define support for Unicode and Chinese Character sets)で提案、この Correct Proposal は 2003 年に承認され、DICOM 規格 2004 に追加された。そして、市場には Unicode をサポートした装置が導入されてきている。しかし、日本では Unicode の使用及び記述形式などについての指針は出ていない。そのため、JIRA DICOM 委員会として早急に指針を出す必要があると考える。

### Pros. vs. Cons

Pros	Cons
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 海外ベンダー製品の参入・導入障壁低減</li><li>・ 日本語以外の言語への対応の難易度が低減</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 開発工数の増大(従来の文字コード以外に Unicode(UTF-8)にも対応できるように開発しなければならなくなるため)</li><li>・ 既存及び現行システムでは、Unicode を扱うことができないシステムがある。</li><li>・ Unicode では定義されている文字で、ISO-IR87/ISO-IR157 では定義されていない文字がある(例えば、高)。</li></ul>

以上